京都府行財政改革支援等特別交付金　自己評価調書

団体名　京田辺市

２．平成２６年度　行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について

支援区分	事業名・実施項目
行財政改革推進枠	空き教室の転用による保育所分園整備事業

事業着手前	
課題・現状	本市は、大阪市や京都市などの大都市へのアクセスの良さから現在も人口が増加しており、特に大規模な宅地開発による子育て世帯の増加、共働き世帯の増加による保育需要の高まりは著しい。一方、本市には計8つの幼稚園があり、近年は近隣私立幼稚園や保育所への需要の高まりにより空き教室が目立っている現状である。
事業概要	幼稚園空き教室を修繕により転用し、保育所分園を新たに整備する。
期待される事業効果等	同等の保育施設を新たに建設する場合の経費と比較し、幼稚園の空き教室を修繕により保育施設に転用し事業を実施することで、大きな歳出抑制効果が期待できる。 また、部局横断的に実施された今回の施設利用の形は、今後の新たな公共施設運営のあり方を示すものとなる。

事業実績			
取組状況	子どもの増加により、待機児童が懸念される保育所の近隣にある幼稚園の空き教室を保育所仕様に修繕することで、保育所分園を整備した。		
主な実績数値 （出来高数値等）	幼稚園の空き教室の修繕対応により、30人規模の保育施設に転用し事業を実施した。		
期待される事業効果等 に対する達成状況	達成	（左の理由）	同等の保育施設を新たに建設する場合の経費と比較し、大きな歳出抑制ができた。

行革効果	
行革効果の考え方	①新たに同規模の保育所建設にかかる費用　用地代：36,000千円、建物代：32,880千円 ②転用のために要した修繕費　初年度：26,975千円（内H26事業費5,387千円） 行革効果（①－②）　・・・　41,905千円

年度	H26								合計
行革前(a)	68,880								68,880
行革後(b)	26,975								26,975
行革効果(a)-(b)	41,905								41,905